



今尾景年(一八四五〜一九二四)は、鈴木百年に絵を習い花鳥画を得意とした画家である。明治二十四年から二十五年にかけて百種類以上の鳥を四季の草花とともに描いた『景年花鳥画譜』が出版され、その序文では「禽鳥之神彩飛動(描かれた鳥の姿はまるで躍動しているようである)」と師百年より賛辞を得ている。その景年が晩年に描いた花鳥画の集大成が、大正の大札を祝って宮内省高等官一同より献上された本屏風である。右隻には紫蘭、薔薇、芍薬といった春から初夏にかけての草花、左隻には菊に水仙、薔柑子と秋冬の草花が描かれ、そうした四季の移りゆく草花をつなぐように常緑の松が左隻から右隻へと枝をのびしている。そしてハッカク、キンケイといった美しい羽毛を持つ鳥を中心に、ヤマガラ、ヒレンジャク、キレンジャク、カナリア、イソヒヨドリ、ミヤマホオジロ、カワラバト、マヒワ、ブンチョウ、カケス、ジョウビタキといった色とりどりの鳥たちが描き込まれている。日本画の画題としてなじみ深い鳥だけではなく野に見られる鳥も入り交じって描かれている点が興味深い。

63 今尾景年《花鳥之図》

大正四年(一九一五)
絹本金地着色
本紙各一七七・九×三八一・六

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan